

令和2年度

大学スポーツの資源を活用した地域活性化拠点形成
大学アドミニストレーター配置支援事業

成果報告書

令和3年3月

新潟医療福祉大学

目次

1	事業の概要 2
1.1	事業の趣旨及び目的 2
1.2	事業の内容 2
	(1) 自治体との連携（新潟市北区との包括連携協定）	
	(2) スポーツ傷害予防フェスタ	
	(3) スポーツ・ヘルスケア産業創生に係るシンポジウム	
2	大学のスポーツ資源を活用したコンソーシアムの形成及び 地域活性化に向けた具体的な取組の推進 3
2.1	新潟市北区との包括連携協定について 3
2.2	新潟市後援事業の実施 4
2.3	スポーツ傷害予防フェスタ 4
2.4	スポーツ・ヘルスケア産業創出に係るシンポジウム 14
	 13
3	まとめ	
3.1	実施した事業 18
3.2	総括 18
	 18

1 委託事業の概要

1.1 事業趣旨・目的

本学は保健・医療・福祉・スポーツの総合大学として、対象者の QOL (Quality of Life) 向上を考え、QOL 向上のため支援を実践する人材 (QOL サポーター) の育成を教育の基本理念としている。また、本学は地域のスポーツ振興や人材育成に寄与するためのスポーツ資源として、教員の研究成果、運動部、スポーツ施設、健康・スポーツを実践的に学ぶ学生等の資源を保有している。

本学は健康科学部健康スポーツ学科と強化指定クラブを中心に、地域と大学が連携・協働・共創する場を作り、共に学び、成長、発展し、共に QOL を向上させることを目的として、既に地域へのスポーツ指導や障害者スポーツの振興、アスリートのキャリア支援についての実績を残している。また、2018 年度では大学スポーツ振興の推進事業として、本学スポーツのブランド力向上に向けた施策立案、コンプライアンス遵守、安全対策、大学外との連携強化策立案、スポーツ教室の質の向上、スポーツ傷害予防フォーラムの実施、アルビレックスグループと連携した人材育成のさらなる推進、障害者スポーツのさらなる振興に取り組んだ。2019 年度には地域と連携していくための基盤整備として、アスリートの傷害発生予防を目的とした調査研究と予防的介入活動、アルビレックスグループと連携した課題解決型教育プログラムの構築、新潟医療福祉大学版学生アスリートのキャリア形成支援プログラムの構築に取り組んだ。

今後、これまでの取組をさらに発展させ推進していくためには、地域や企業と連携し、対外的な価値の提供を図りながら資金調達を行っていくことが必要である。本事業ではその資金調達の基盤を構築するため、新潟市北区と締結している包括連携協定に基づき地域や企業との連携を図っていく。外部との連携を推進し、①応援される学生アスリートの育成、②健康スポーツ・リハビリテーション連携による地域貢献と研究、③スポーツ・ヘルスケア産業の創出、を同時に推進し、これにより本学独自の大学スポーツを軸とした健康スポーツ科学とリハビリテーション科学の総合エコシステムを目指す。

①応援される学生アスリートの育成では、保健・医療・福祉・スポーツに関連する様々な教員や学生、OBOG、地域、企業、行政を大学スポーツで繋ぐと共に、大学スポーツの経験を活かして地域の企業等で働く人材の輩出を目指す。

②健康スポーツ・リハビリテーション連携による地域貢献と研究では、地域貢献および研究を通して本学の強みである保健・医療・福祉・スポーツの連携を促進するとともに、地域から応援される大学を目指す。また、実際の多分野の連携による取り組みにより、本学の特色である多職種で連携できる QOL サポーターの育成を推進する。①との相乗効果により地域とのつながりを深める。

③スポーツ・ヘルスケア産業の輩出では、①および②での取り組みを基盤として発展させた保健・医療・福祉・スポーツの専門人材、研究、実践現場、連携団体を活かして産業創出を行うことにより、地域経済の活性化と保健・医療・福祉・スポーツ分野の発展を目指す。

1.2 事業の内容

前述の趣旨・目的を達成するために、本事業においては（１）～（３）を推進していくための事業として、企画・立案及び実施を行った。

(1) 自治体との連携（新潟市北区との包括連携協定）

資金調達の基盤を構築するため、新潟市北区と締結している包括連携協定に基づき地域や企業との連携を図っていく

(2) スポーツ傷害予防イベントの実施、

健康スポーツ・リハビリテーション連携による地域貢献と研究では、地域貢献および研究を通して本学の強みである保健・医療・福祉・スポーツの連携を促進するとともに、地域から応援される大学を目指す。また、実際の多分野の連携による取り組みにより、本学の特色である多職種で連携できる QOL サポーターの育成を推進する。①との相乗効果により地域とのつながりを深める。

(3) スポーツ・ヘルスケア産業創出に関するシンポジウム

保健・医療・福祉・スポーツの専門人材、研究、実践現場、連携団体を活かして産業創出を行うことにより、地域経済の活性化と保健・医療・福祉・スポーツ分野の発展を目指す。

2 大学のスポーツ資源を活用したコンソーシアムの形成及び地域活性化に向けた具体的な取組の推進

2-1 新潟市北区との包括連携協定について

本学の地域連携（貢献）活動の最大の特徴は、新潟市北区との連携を基本にしていることである。それは、学生も教員も地域の一員であり、地域との連携なくしては大学の価値は共有されないとの認識に基づいている。2010年3月には、開学以来9年間にわたる実績を踏まえ、新潟市北区と本学との間において包括連携協定を締結した。指定都市の行政区と大学が個別に協定を締結して地域連携を推進する取組は、全国的にも例が少ないとされている。この包括連携協定のもと、特色ある区づくり予算事業（地域子育て支援事業、大学生と地域の協働による人・地域・学校づくり支援事業、「稼げる農業」促進事業等）の連携・協力がある。

特に、2013年度から取り組んでいる「学生との協働による次世代人材育成支援事業」（2016年度からは「大学生と地域の協働による人・地域・学校づくり支援事業」として実施）では、毎年延べ1,000人の学生が、北区内の小・中学校や地域に出向き、学習支援やスポーツ支援、学校行事や各種地域行事等で活動している。

また、「北区ふゆっこまつり」では本学を会場とし、雪のため屋外で遊べない子供に遊べる場を提供するイベントとして2,000人以上の参加がある。今後も継続して活動をしていく。

2-2 新潟市後援事業の実施

本事業の「スポーツ傷害予防フェスタ in 2020 NUHW」、「スポーツ・ヘルスケア産業創出に関するシンポジウム」ともに新潟市より後援をいただき、事業として連携をした。

この事業をきっかけに、大学と更なる連携を深め、地域への貢献事業を進めていく。

2-3 「スポーツ傷害予防フェスタ in 2020 NUHW」

1) 開催趣旨

人々が安全にスポーツを楽しみ、幸せな生涯を過ごすためには、傷害予防の推進は非常に重要であり、本学が保有するスポーツ科学とリハビリテーション科学の知見を活かし、地域のスポーツ傷害予防を推進する活動の一環として、新潟県内のミニバスケットボール選手及び、指導者、保護者に対してスポーツ傷害予防の研修会を企画した。

この度、スポーツ庁の委託事業「大学スポーツ振興の推進事業」の一環として「スポーツ傷害予防フェスタ 2020 in NUHW」と題し、地域のミニバスケットボールチームを中心とした指導者、選手、保護者、医療関係者への講義および実技講習、そしてバスケットボールクリニックを実施した。本来は本学での開催を予定し準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大の中、安全な運用をするために接触のないオンデマンドでの開催とした。

また、本イベントは、委託事業のうち、「健康スポーツ・リハビリテーション連携による地域貢献と研究」として行ったものである。

2) 日時

2月6日(土) 10:00~13:00

3) 場所

オンデマンド開催

4) 後援

新潟市

5) 参加者

申込数 91件 186名 最大同時視聴数 159名

6) 内容

①開会挨拶

新潟医療福祉大学

スポーツ振興室 室長 西海幸頼

②第1部 講義「小学生の身体とミニバスケットボールのけが」 10:00~10:30

新潟医療福祉大学 健康スポーツ学科 教授 大森 豪 氏

③第2部 実技講習「傷害予防のためのセルフチェックとコンディショニング」 10:40~11:20

新潟医療福祉大学 理学療法学科 講師 菊元 孝則 氏

④第3部 実技講習:「バスケットボールクリニック」 11:30~13:00

新潟医療福祉大学 女子バスケットボール部 監督 伊藤篤司 / コーチ 小林 真里奈

7) 実施の様子



8) . 実施効果の検証

①参加者数目標を100名としていたが、結果は186名まで大幅増となった。新潟市の地域を中心に、他地区の医療関係者、バスケットボール指導者へもSNS広告を打ったことで認知された。

実際に限られた時間で実技の指示が出来ない事等の弊害があり、オンラインで運用の難しさを痛感したが、講義内容は概ね好評であった。

バスケットボールクリニックはとても参考になる動画となった為、動画をもう一度視聴したい等、指導者や保護者からのリクエストが多数あった。

今後は地域の子供たちと触れ合いコミュニケーションをとれるようなセミナーが実施できることを目標にしたい。

②参加者アンケート以下の通り。

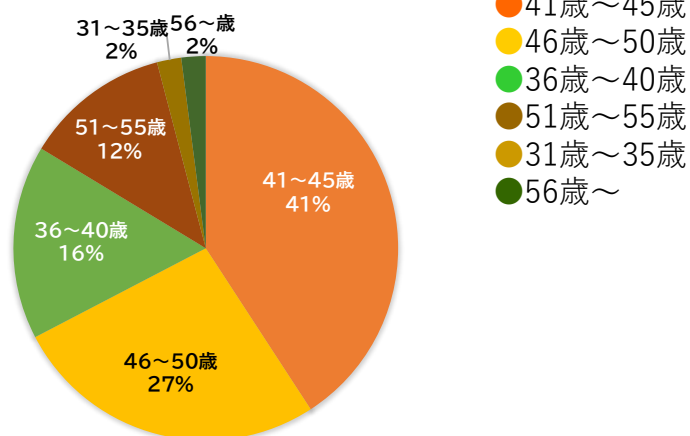
対象者 91 件 回答者数 49 名【回収率 53.8%】

アンケート内容

設問1	ご年齢
設問2	あなたのスポーツとの関わり
設問3	視聴人数
設問4	第1部についての感想
設問5	第2部についての感想
設問6	1部・2部について怪我の予防について新たな知識を得られたか
設問7	怪我の予防に対する意識は変わったか
設問8	第3部についての感想
設問9	第3部について参考になったトレーニング
設問10	今後新潟医療福祉大学で傷害予防のイベントがあったら参加したいか
設問11	他に新潟医療福祉大学で開催してほしい講習やイベントはあるか
設問12	その他ご意見

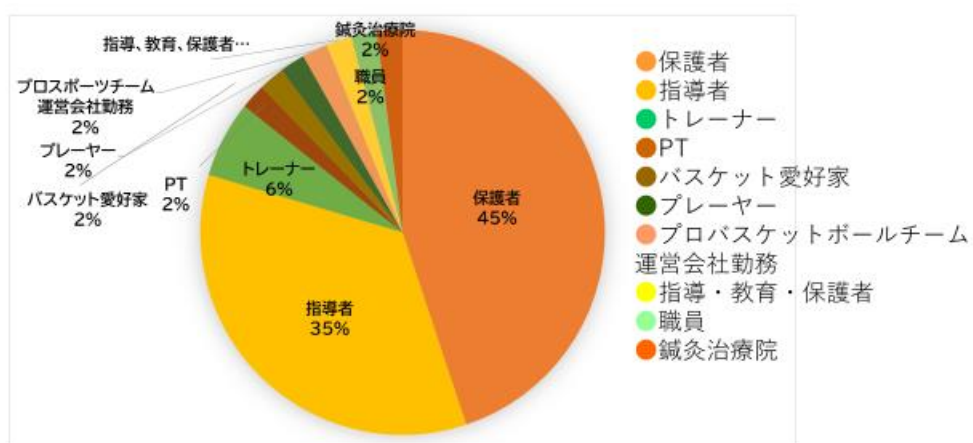
1. ご年齢

49件の回答



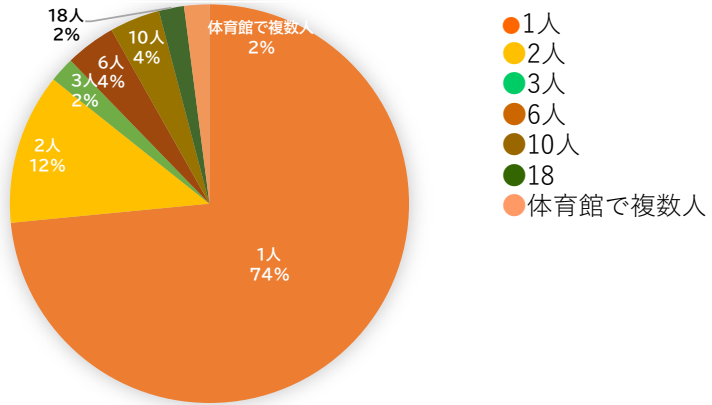
2. あなたのスポーツとの関わり

49件の回答



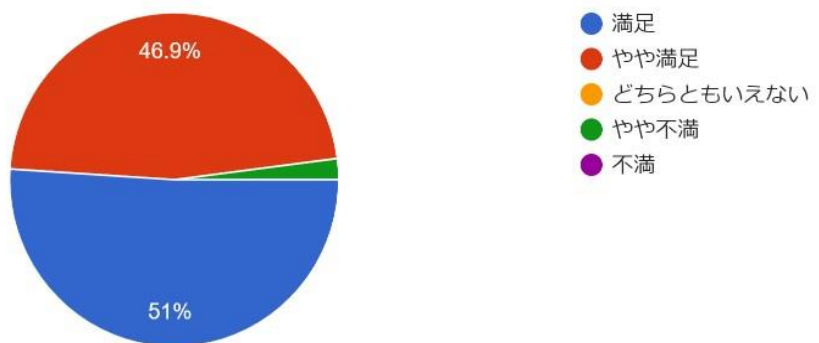
3. 何名で視聴されましたか？

49件の回答



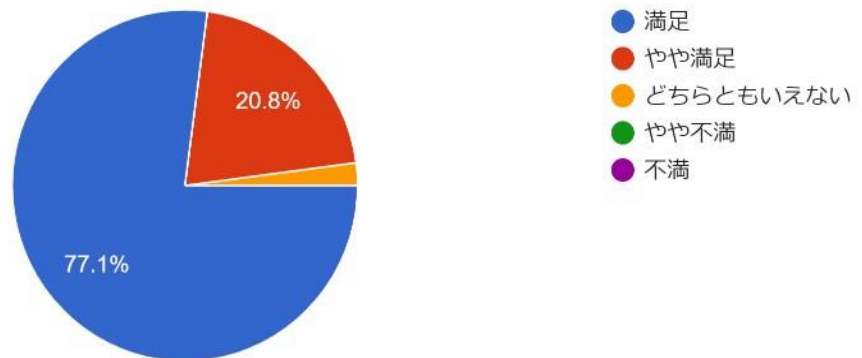
4. 第1部について セミナーに参加していかがでしたか？

49 件の回答



5. 第2部について セミナーに参加していかがでしたか？

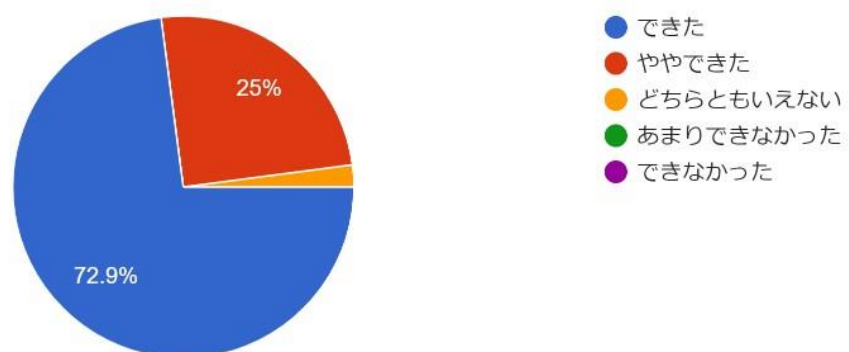
48 件の回答



団

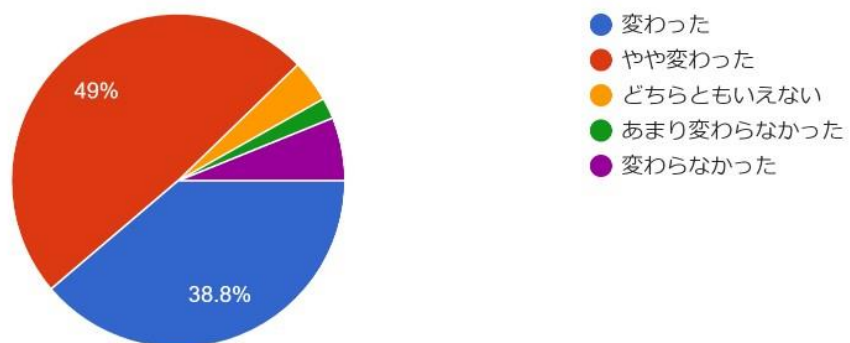
6. 第1部/第2部について ケガの予防について新たな知識を得る事ができましたか？

48 件の回答



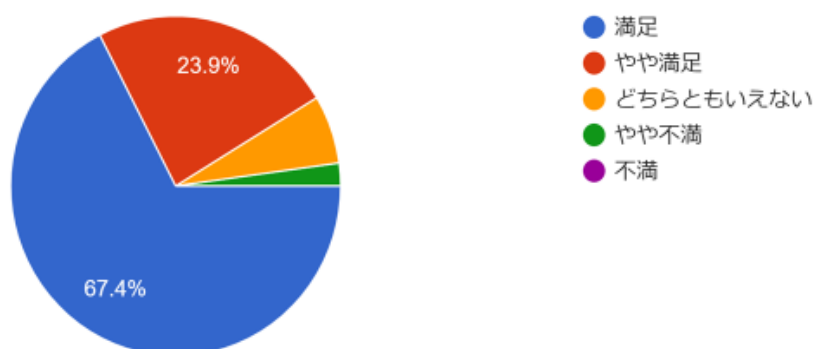
7. 第1部/第2部について ケガの予防についての意識は変わりましたか？

49 件の回答



8. 第3部について セミナーに参加していかがでしたか？

46 件の回答



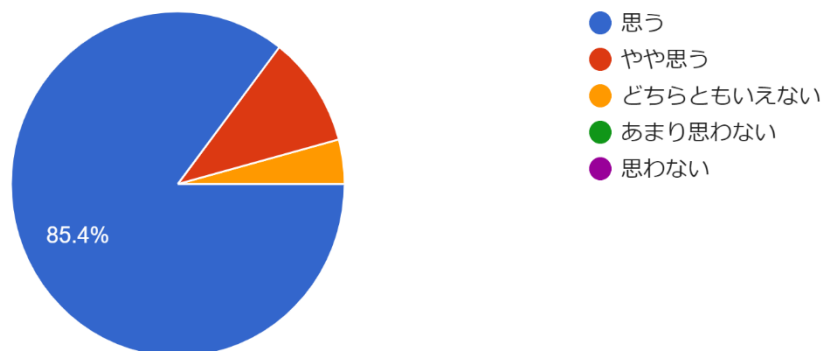
9. 参考になったトレーニング内容は？

27件の回答

ミート	11
ミート&ドライブ	2
リバウンドポジション、ドリブルドリル	2
ミートドライブ ジャイル・Box out 2on2	1
コーディネーショントレーニング	1
コーディネーショントレーニング、リバウンド、コンタクトについて	1
パワースタンス	1
パワーポジションのゲーム	1
リバウンドのハンドリング	1
神経を刺激するトレーニング	1
全て	1
全体的に興味深かったが、競技を始めたばかりの子供たちにはレベルが高すぎた。	1
頭と、ボールを入れ替えて、体の部位を触るトレーニングがとても参考になりました。	1
頭と体のウォーミングアップ	1

10. 今後また新潟医療福祉大学で傷害予防のイベントがあった場合に参加したいと思いますか？

48件の回答



11. 他に新潟医療福祉で開催してほしい講習やイベントは？

15件の回答

膝の負傷後のリハビリトレーニングメニューの講習	2
ケガをした時のテーピングの巻き方。栄養学	1
ストレッチ及びウォーミングアップ、クールダウンに特化した講習	1
スポーツリハビリテーション バスケットボールなど	1
スポーツ外傷とスポーツ障害の対処、予防など複合的視点からの講習/スポーツ外傷・障害のリハビリ、復帰へのプロセスについての講習	1
バスケット以外のスポーツ 例えば、サッカー、水泳など	1
もう少し医学的な内容にリンクしたトレーニング内容	1
ラダーなどを使ったコーディネーショントレーニング	1
介護。身体が不自由な方の介助方法。	1
怪我の処置方法などオンライン講習会期待します	1
成長期の女子アスリート	1
他種目について、アスリートの食事と健康管理	1
動体視力トレーニングやって欲しい	1
お任せします	1

12. その他ご意見など 27件の回答

・今回はオンラインで資料がないため、振り返りをしたいのですが、動画を再度視聴することできないでしょうか？ご検討よろしくお願いします。	10
・今後の指導に役立つ充実した内容でした また、機会があれば参加したいと考えています。	2
・小学生選手の成長や骨の画像など、とてもわかりやすく、もっともっとお話を聞きたいと思って聴講させていただきました。翌日のトレーニングで、捻挫をしている選手に、捻挫を繰り返すと、大きな怪我をしやすくなると、リハビリをしっかりとする大切さを伝えさせていただきました。第3部のトレーニングも、やってみたいことがばかりでしたが、メモが間に合わず、残念ながら実施をすることができません。何か資料などがありましたら、教えていただきたいです。	1
・怪我防止のためのストレッチの大切さ、改めて重要だと感じました。	1
・地域クラブと大学の楽しむ交流をふやしてほしい。	1
・オンラインだと、遠方でも参加ができてありがたかったです。	1
・今回のようなセミナーを年1回お願いします。	1
・今回のようなセミナーを年1回して欲しい。	1
・今現在、緊急事態宣言が発令されている県のため、大会も全て中止・体育館の利用も禁止となりバスケはしばらくしておりません。個人練習はしているものの家でできるメニューにも限度があり...モチベーションの維持が難しい中、このような学びの場を開催していただけたことに感謝しております。ありがとうございます。	1
・1部がミニバスケット向けの内容だったのに対して、3部は3Pを打った際のリバウンドについてだったりして、対象に一貫性が無かった気がしました。ミニ世代だからこそご指導だったら尚良かったと思います	1
・ボリュームがあり、一つ一つの評価・トレーニングについて確認する時間が不足していた。配布資料があればその問題を補完できると考える。配布資料の提供をご検討ください。	1
・仕事しながら オンラインセミナーみていたため 見逃した場面があります 一定期間のみアーカイブ再放送をお願いできませんか？素晴らしい内容のセミナーでしたので 見ていないスタッフにみせたいです。ご検討ください。	1
・実践したいと思っています。動画は見れなくとも、レジュメなど復習する素材は提供して下さいますか。	1
・大変素晴らしい内容なので、保護者など大勢に配布出来る簡易版の動画などがダウンロード出来るとスポーツ業界の発展に繋がると思います。	1
・動画をまた見たい時に見れるようにしてほしい。	1
・非常に興味深かったです！模範生はこのチームの方ですか？またこのような機会がありましたら参加させてください。色々企画制作ありがとうございます。	1

2-4 「スポーツ・ヘルスケア産業創出に関するシンポジウムの開催」

1) 開催趣旨

本学には保健・医療・福祉・スポーツの各専門分野に精通した教員が所属している。また、強化指定クラブには実際の競技スポーツの現場があり、スポーツ教室の開催等ではスポーツ振興の取組を行っている。さらに、プロスポーツクラブであるアルビレックスグループと連携した人材育成や、本学が所属するNSGグループが運営している医療法人愛広会、社会福祉法人愛宕福祉会などの医療・福祉機関との連携も行っている。

このように本学は保健・医療・福祉・スポーツの専門人材、研究、実践現場、連携団体を抱えており、本事業ではこの連携を活かし、スポーツ・ヘルスケア産業創出への基盤としてシンポジウムの開催を行った。

今回は、下記の通り、産学連携の実績が豊富な本学教員、県内の他大学の大学発ベンチャーでヘルスケア領域で起業した経営者、スポーツテック領域でデータ解析サービス事業を行っている経営者の講演及びパネルディスカッションを通して、新潟医療福祉大学が大学を中心としたスポーツ・ヘルスケア産業創出をする可能性を探る機会として構築した。

2) 日時

2021年2月6日（土） 13:30～15:45

3) 場所

オンライン開催

4) 後援

新潟市

5) 参加者

申込数69名 最大同時視聴数45名

参加者の属性はスポーツメーカー、医療機関、大学関係者、行政、スポーツ団体等。

6) 内容

①開会挨拶

新潟医療福祉大学

研究・産官学連携担当副学長／リハビリテーション学部長／理学療法学科長／教授

大西 秀明 氏

②第1部 「産学連携の事例とアスリートサポート研究センターの可能性」

新潟医療福祉大学 健康科学部健康スポーツ学科 教授

アスリートサポート研究センター センター長

大森 豪 氏

【講師プロフィール】

1958年新潟市生まれ。整形外科医師で専門は膝関節外科、スポーツ医学、生体工学。研究者として大学での教育研究活動、医師として医療機関やスポーツ現場での活動を通して健康で豊かな社会の実現に取り組む。

③第2部 「新潟県の健康寿命延伸に向けた、大学医学部発ベンチャーの展望」

株式会社アイセック 代表取締役CEO

木村 大地 氏

【講師プロフィール】

新潟明訓高等学校卒業、神奈川大学経営学部卒業。2011年株式会社リンケージ創業。厚労省、経産省公募事業採択実績多数。日本初オンライン禁煙診療開発。2019年12月株式会社アイセック創業。新潟大学大学院医歯学総合研究科医学系客員研究員、修士課程在学中。新潟県産業労働部「スタートアップ育成プロジェクトチーム」構成委員。

④第3部 「ONE TAP SPORTS の挑戦とスポーツテック産業の今後」

株式会社ユーフォリア 代表取締役

慶應義塾大学大学院SDM研究科特任講師

橋口 寛 氏

【講師プロフィール】

メルセデス・ベンツ日本、アクセンチュア戦略グループ、企業再生等を経て、2008年8月に株式会社ユーフォリア設立。ユーフォリアではスポーツチームのコンディション管理ソフトウェア「ONE TAP SPORTS」を開発しており、ラグビー日本代表をはじめとする2,000を超えるチームに提供している。ダートマス大学経営大学院修了（MBA）。

⑤第4部 「大学を中心としたスポーツ・ヘルスケア産業創出の可能性」

講師3名によるパネルディスカッション

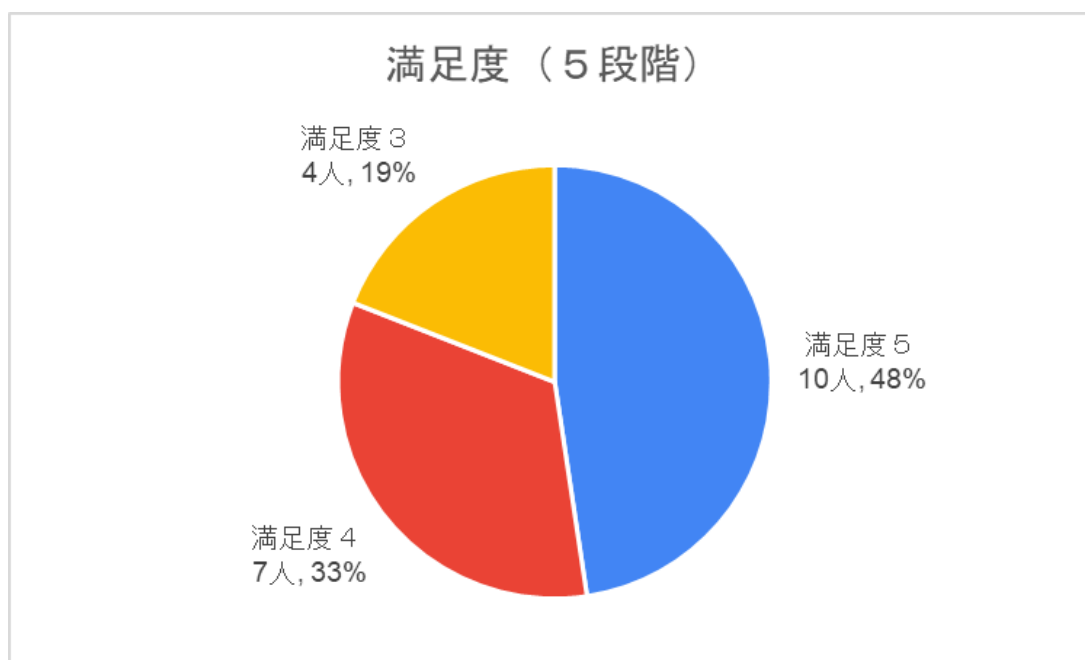
7) 実施の様子



8) 実施効果の検証

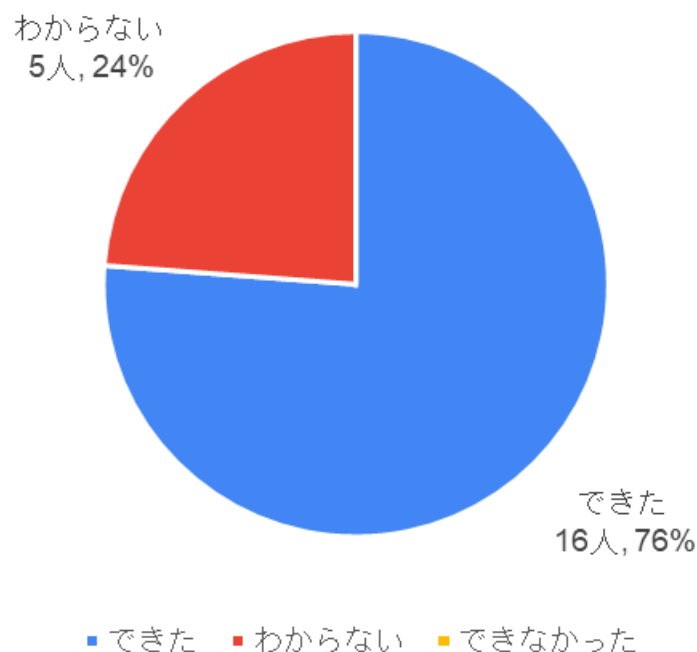
①参加者数目標100名としていたが、申込69名となった。シンポジウムの広告の出稿日が開催日に近く、期間も短かったことが未達の要因として考えられる。今後は広告出稿計画の見直しが必要と考える。

②参加者アンケート（N=21）の結果は以下の通り。



平均：4.3

大学を中心としたスポーツ・ヘルスケア 産業創出に関する着想を得ることができたか



以上のように、満足度の平均が 4.3、産業創出に関する着想を得た参加者が 76%と高い効果を得ることができた。

③パネルディスカッションにおいて、大学を中心としたスポーツ・ヘルスケア産業創出の可能性について以下のポイントが議論され、本学が取り組むべき方向性が再認識された。

- ▶ 大学内にある強みを探し見える化し、外部から研究者へどうアプローチすればよいか明確にする。
- ▶ 研究という科学的なエビデンスを構築する力を活かす。
- ▶ 大学スポーツという実践の場を活かす。
- ▶ 全てを大学がしようとするのではなく、外部との連携が重要。
- ▶ 起業家を育て、大学と連携し、地域で支える仕組みが必要。
- ▶ 企業の段階ごとに必要な支援を得られるための、橋渡し役が必要。
- ▶ 資本政策と広報ができる人材が必要。
- ▶ 大学の中と外にいる「想い」を持った人を見つけることから始める。

3 まとめ

3-1 実施した事業

(1) スポーツ傷害予防フォーラムのオンデマンドでの実施

本学の特色であるリハビリテーション科学とスポーツ科学を組み合わせ、地域のスポーツ団体を対象としたスポーツ傷害予防に関するフォーラム「スポーツ傷害予防フェスタ in NUHW」をコロナ予防対策のためオンデマンドで開催した。

地域のミニバスケットボールチームを対象とし、選手、指導者、保護者に対して傷害予防に関する講義・実技動画を作成しバスケットボールのクリニックを行った。

参加者アンケートによって評価を行い、参加者の満足度が高く、参加者がケガの予防について新たな学びを得、ケガの予防に対する意識が変わったとの結果となった。何度も視聴できるようにしてほしいと共に、継続実施や他競技への展開を求める要望も頂いており、今後も地域での傷害予防の推進に取り組んでいく。コロナ禍が収まった時には、大学施設を使い、対面にて実施し、改善しながら地域に貢献できる活動に努めていく。

(2) スポーツ・ヘルスケア産業創出に関するシンポジウムでのオンライン開催

スポーツ・ヘルスケア産業の輩出では、応援される学生アスリートの育成および健康スポーツ・リハビリテーション連携による地域貢献と研究での取り組みを基盤として発展させた保健・医療・福祉・スポーツの専門人材、研究、実践現場、連携団体を活かして産業創出を行うことにより、地域経済の活性化と保健・医療・福祉・スポーツ分野の発展を目指している。

このように本学は保健・医療・福祉・スポーツの専門人材、研究、実践現場、連携団体を抱えており、本事業ではこの連携を活かし、スポーツ・ヘルスケア産業創出への基盤としてシンポジウムの開催を行った。オンラインでの開催ではあったが、各界でのスペシャリストを講師に迎え、充実した内容になり。今後のスポーツ・ヘルスケア産業に飛躍を感じたシンポジウムになった。今後は、更なる産業創出に向けて、継続して開催したいと考える。

3-2 総括

これまでの本学の取組をさらに発展させ推進していくためには、地域や企業と連携し、対外的な価値の提供を図りながら資金調達を行っていくことが必要であった。本事業では、その資金調達の基盤を構築するため、新潟市北区と締結している包括連携協定に基づき地域や企業との連携を図った。

外部との連携を推進し、①応援される学生アスリートの育成、②健康スポーツ・リハビリテーション連携による地域貢献と研究、③スポーツ・ヘルスケア産業の創出、を同時に推進し、これにより本学独自の大学スポーツを軸とした健康スポーツ科学とリハビリテーション科学の総合エコシステムの構築を推進した。

今後も地域と企業と連携して、価値向上に取り組んでいく。